「産業ストレス研究」執筆規定

2026年7月改訂

1．本誌に掲載される論文は，依頼論文と投稿論文とし，未発表のものに限る。
2．本誌は産業ストレス研究領域の国際的な学術交流の促進を目的とし，海外からの投稿および英語による投稿原稿を歓迎する。英語原稿は既定の投稿区分に従い，通常の査読手続きに基づいて審査される。
3．投稿論文および依頼論文は，本学会の目的に沿った論文とし，「原著／症例報告，資料論文，活動報告，総説，話題，論壇」の6種を設ける。投稿資格者は，学会正会員とする。
4．1）原著／症例報告《未発表のデータおよび症例に基づく研究論文》
原著⑴データの解析方法・統計的処理が適切に行われていること
⑵同一データを用いた異なる解析方法・統計的処理による発表ではないもの
⑶文献に基づく考察が適切に行われていること
⑷オリジナリティの高いもの
⑸引用する文献は必要にして最低限のものであること
症例報告⑴同一症例を用いた異なる観点からの発表ではないもの
⑵その他は原著に準ずる
※論題（邦文，英文），著者名（邦文，ローマ字表記），所属（邦文，英文），5個以内のキーワード（邦文，英文），Running head（短い標題：邦文，英文30字）を第一ページに記し，第二ページに200語以内の英文Abstract（邦訳付），英文の場合も200語以内の英文要旨を記し，第三ページ以降に，はじめに（Introduction），方法（Method），結果（Results），考察・論議（Discussion），および引用文献を続けて書く。
2）資料論文《調査・実験・観察等に基づく資料の紹介》
⑴データの解析方法・統計処理等が適切に行われていること
⑵同一データを用いた異なる解析方法・統計的処理による発表ではないもの
⑶文献に基づく考察は必ずしも必要としない
⑷オリジナリティは必ずしも必要としない
⑸英文タイトル・英文抄録・キーワードの添付を要する
3）活動報告《現場等における活動の実際を報告するもの》
⑴実践的活動の現状を中心としたもの
⑵活動の効果等に関する検証は必ずしも必要としない
⑶統計的解析処理は必ずしも必要としない
⑷英文タイトル・英文抄録・キーワードを要する
4）総説《展望・レビュー・文献紹介など》
⑴特定の研究領域に関する現状の紹介および将来展望
⑵最新情報を含めた総合的な記述がなされ，関連する文献を網羅することが望ましい
⑶特定領域の初学者に対する解説であってもよい
⑷英文タイトル・英文抄録・キーワードの添付を要する
※各章立てにする点を除いて原著に準ずる。
5）話題《産業ストレスに関連する諸領域の話題やトピック》
⑴読者の関心をひくup to dateな内容であること
6）論壇《「産業ストレスの本音を語る」をテーマに自由闊達に記述する》
⑴原稿はA4用紙に1行32文字，1頁25文字（800字）で1600～3200字以内，刷り上り1～2枚（1頁約2000字）とする
⑵タイトル・投稿者名・所属・本文の順に和文で記述する
⑶掲載料は無料とする（但し，別刷を希望する場合は1部100円）
5．投稿論文および依頼論文の投稿時に当学会所定の「倫理チェックシート」および「投稿時COI自己申告書」を提出する。
6．論文の記述は簡単明解に現代かなづかいを用いて行う。なお，英文論文は投稿以前に必ずNative speakerの専門家に目を通してもらう。
7．ワードプロセッサーやコンピュータを用いて記述する場合は，邦文原稿はA4判用紙に，1行32文字，1ページ25行の書式で記述する（800字／ページ）。英文原稿も同じくA4判用紙にダブルスペースでタイプする。
8．文献は引用順とし，末尾文献表の番号を片括弧を付けて右上肩に記す。文献の書式は原則としてバンクーバースタイルに従うこと。
例：合田ら[1]によれば
文献引用例
雑誌の場合は，全著者名．表題，雑誌名（略名）．年号；巻数：頁－頁．の順に記す。
1）合田　忠，坂本竜夫．抗酸菌の中性紅反応に関する一考察，結核．1967；42：279-83.
2）Maruyama S, Kwon YS, Morimoto K. Seismic intensity and mental stress after the Great Hanshin-Awaji Earthquake, Environ Health Prev Med. 2001; 6: 165-9.
3）1），2）の註：原則として号数は記載しない。ただし通巻頁のない場合は号数を記すこと。雑誌名はその雑誌が使用している略名とする。

単行本・報告書の場合は，全著者名．章表題．編著者名．全体表題．発行所所在地：発行所；年号：頁－頁．の順に記す。
4）中川一郎，二国次郎．吉川春寿．新栄養学．東京：朝倉書店；1963：497.
5）堤　明純．職業ストレス対策の一次予防戦略．In：丸山総一郎（編）．ストレス学ハンドブック．大阪：創元社；2015：478–90.
6）下光輝一，原谷隆史，中村　賢，川上憲人，林　剛司，廣　尚典，荒井　稔，宮崎彰吾，古木勝也，大谷由美子，小田切優子．主に個人評価を目的とした職業性ストレス簡易調査票の完成．In：加藤正明（班長）．労働省平成11年度「作業関連疾患の予防に関する研究」労働の場におけるストレス及びその健康影響に関する研究報告書．東京：労働省；2000：126–64.
7）Grundy F. Preventive medicine and public health. London: H. K. Lewis Co. Ltd.; 1960.
8）Turner J, Wheaton B. Checklist measurement of stressful life events. In: Cohen S, Kessler RC, Gordon LU, eds. Measuring stress. New York: Oxford University Press; 1997: 29-58.
3），4），5），6），7），8）の註：引用箇所の頁数を記すこと。ただし内容を全般的に引用する場合は頁数を略してもよい。
Webページの場合は，著作者名：表題．閲覧日；webページアドレスの順に記す。
9）厚生労働省：就業形態の多様化に関する総合実態調査．[2015年7月7日閲覧]；Available from: http://www.e-stat.go.jp/SG1/

Presented by Medical*Online

estat/NewList.do?tid=000001021304

9．本雑誌の単位符号は原則としてSI単位を用いる。(JIS Z 8203参照)

例：1）長さ，面積，体積　km, m, cm, mm, μ, μm, nm（特殊な分野ではÀ）
km^2, m^2, cm^2, mm^2（ha, a）
m^3, cm^3, mm^3, ℓ, dℓ, mℓ, kℓ, $\mu\ell$

2）質　　量　kg, g, mg, μg

3）時　　間　d（日），h（時），min（分），s（秒），ms, μs

10. 脚注は表題と所属機関についての補足説明，謝辞，内容の補足説明に限り用いる。文中の該当箇所に前から順に通し番号を付け，原稿は参考文献の次のページに書く。

11. 図や表の数は必要最小限にとどめ，一枚ずつＡ４判用紙に書く。図表は，そのまま製版できる状態にしなければならない。図表は印刷されるときの大きさの1.5ないし２倍大に書く。写真についても印刷される大きさの1.5ないし２倍大の光沢平滑印画紙に焼き付けること。カラー写真の場合はその製版印刷の全額を著者の負担とする。なお，コンピュータを用いて製作した図や表も受け付けるが，不都合な場合は使用ソフトにて編集委員会がその都度指示する。

12. 図や表の説明は脚注の次のページ以降に順に書く。

13. 全てのページにページ番号を付けること。また，各行の左端にページごとに行番号を付けること。

14. 掲載料は当分の間，一編につき刷り上がり１頁（400字詰め原稿用紙約５枚に相当する）あたり2,000円とする。なお，別刷代は１編につき，頁数に関わりなく１部100円として，請求部数は50部単位とする。

15. 論文は，原則としてMicrosoft Wordで作成し，下記事務局宛にMicrosoft WordまたはPDFの状態でＥメールに添付し送付すること。図表についても，できるだけ論文原稿とともに１つのMicrosoft WordファイルまたはPDFファイル内にまとめること。

16. 投稿論文および依頼論文の掲載可否は最終的に編集委員会が決定する。

17. 本誌に掲載された論文の著作権は日本産業ストレス学会に帰属する。

18. その他，疑義が生じた場合は編集委員会に問い合わせる。

産業ストレス研究編集委員

編集委員長　江口　尚　産業医大・産業生態科学研究所・産業精神保健学
副編集委員長　高原　龍二　大阪経済大・経営
編集幹事　石川　浩二　三菱重工業㈱・大江西健康管理チーム
今村幸太郎　東京大大学院・医学系研究科・デジタルメンタルヘルス
大塚　泰正　筑波大・人間系
小林　由佳　法政大・現代福祉
島津　明人　慶應義塾大・総合政策
種市康太郎　桜美林大・リベラルアーツ学群
堤　明純　北里大・医・公衆衛生学
西　賢一郎　ジヤトコ㈱
真船　浩介　産業医大・産業生態科学研究所・産業精神保健学
吉内　一浩　東京大・医・心療内科
編集委員　井澤　修平　労働者健康安全機構・労働安全衛生総合研究所・産業保健研究グループ
石澤　哲郎　セントラルメディカルサポート
井上　彰臣　産業医大・IR推進センター
岩田　昇　獨協医大・看護
馬ノ段梨乃　京都府立医大・医・精神機能病態学
小田切優子　東京医大・公衆衛生学
神山　昭男　有楽町桜クリニック
川人　潤子　香川大・医・臨床心理学
小林　章雄　医学と社会・連携支援機構
斉藤　政彦　大同特殊鋼㈱
塩田　直樹　UBE㈱
島津美由紀　ソニーピープルソリューションズ㈱
鈴木　綾子　鉄道総合技術研究所
谷　直道　産業医大・産業生態科学研究所・産業精神保健学
高橋　修　宮城大・事業構想学
巽　あさみ　藤田医大・医
田中　健吾　大阪経済大・経営
津野香奈美　神奈川県立保健福祉大・ヘルスイノベーション研究科
中田　光紀　産業医大・医・公衆衛生学
永田　頌史　産業医大
廣川　進　法政大・キャリアデザイン
坊　隆史　実践女子大・人間社会
福川　康之　早稲田大・文
松原　良次　札幌花園病院
三木　明子　関西医大・看護
渡井いずみ　浜松医大・医・地域看護学
渡辺　和広　北里大・医・公衆衛生学

編集事務局　〒113-0033　東京都文京区本郷三丁目26番1号 本郷宮田ビル3階
よしみ工産株式会社 東京営業所内
日本産業ストレス学会編集事務局　橋爪
TEL 03-5802-5601　FAX 03-5802-5603　E-mail sanst@jajsr-yoshimi.jp

Presented by Medical*Online